一二年 弥先寺の傍なる地を風干するありて人夫数多集り水さいわるに
百十九
[illegible]に佛[illegible]有て法[illegible]出られいとやすく干るまりり是又世中之世なるに
有て奉仕ハ干けきとも比不干るまりく大立ともてあつりひとり水の所の接
さきりんとて水縄安形を打来てうなるまるとしるれ節所を[illegible]紙
の和ともちあつりふるやあるへきりに拾[illegible]場所てあの接たるるみん
るも是紙和もち[illegible]さんや[illegible]なるへ入るないて[illegible]我よ[illegible]せよとそ世よのそみ
のひ小平よめして棹を[illegible]よ[illegible]のひ拾[illegible]る[illegible]扇を接よあてのひ伐のるも
なくあの接をさりのひ大立よ[illegible]ふ別平[illegible]接よ[illegible]やりく水を風干
[illegible]中[illegible]りを付板垣宗[illegible]所[illegible]倍よ伐りてあまり感よ塙よやみ[illegible]ん[illegible]
[illegible]りてはれい大立をもしたる人まてありたるをとおもて[illegible]中[illegible]
一和年 胃石塚義ッ徹有て所西を付大[illegible]ふりて所[illegible]風小幸ありて[illegible]
百二十
さりりけきりも豆粕なるる暴西中りりて[illegible]と[illegible]ふりて[illegible]

[illegible]名伝[illegible]
まてハ拾よ[illegible]数[illegible]降れハ伐年より伐立りを時[illegible]る[illegible]よ[illegible]て[illegible]中上る
に拾よ[illegible]腹[illegible]まてかれる時加る[illegible]よ[illegible]ものまてハなきをとて伐[illegible]
まて伐[illegible]て[illegible]西のふ[illegible]
一辰年 十月十二日水戸へ出有[illegible]
馬あり[illegible]るをもつふふと[illegible]
[illegible]第[illegible]を[illegible]仕[illegible]中上る[illegible]
を足ひもとあ[illegible]ふ[illegible]伐[illegible]水戸て[illegible]
[illegible]敬[illegible]大能牧ハ山中まて[illegible]牧[illegible]
牧[illegible]
百七十三
一山方村武[illegible]支[illegible]毎[illegible]有[illegible]て[illegible]百姓
[illegible]
[illegible]

今度村々ゟ願ひ出て聞済して物渕村ゟ出て来り候ハ
甲斐ゟ為かけ村助力ハ出て来ると申ハ百姓共ハ
毛ハ出ず時ハ出て女房の文ハ出ず百姓共ハ
出ず文ハ出て来人ハ出ず出ハ出ず
いろ〳〵教ゆるとて猶為出通し
ゟ来ると申ハ彼上様文の書ハ
ゟ来ると申ハ水戸へ行ハ
おゆるゆ通ず為ハ
信濃ハ出ず以上四度を申ハ出ず
お延ず百姓なるれ

（別行）
（山方武蔵ノ国田村百姓ノ方ハ
久村動ハ無拠ハ出ず百姓ハ
動ハ無拠ハ出ず）

（別行）
（年ヲ大年）

為金百姓ハ
ハ書物村
ハ出ず
ハ出ず
ハ出ず

荒年にて餓死の類水上が枝多く流下けるを見へ者りるを拾の者多く
流よりも流れ込へ流より〳〵餓死と成ものも有之中に死骸の腐やうなる事
臭く堪るるに堪たと云へるもるるさて見られ申さるなる骸の
上と四〳〵に堪られ申候時 銭公儀方にて取申候 ひろ上げ
申候の上手ふく出 穢り上げ申候 流れて水の上に浮ひ
川へも流やうなる 見へ我ひの立 船頭 なるやうに勝のひろ
筆あり 屋より 流るる人 此下筆の四拾を 入れて小舟の中 なる者 今ふ
公儀より 御 賞 なる 成 大 より 感 有 く 出 候 差 よ 小 船 作 拾 拾 を
ふと 此 公 儀 の 御 ひ ろ ひ な る さ を 拾 ふ 出 拾 拾 を 制 禁 ふ く 九 種 を お を す
出 死 屋 の 拾 ふ 出 ま て 有 け き ハ 拾 ま り の 出 る 出 て さ に 出 ま 外 も 出 ま の ひ く
即 起 拾 り 以 銭 を 取 る と て 出 ま 西 岸 の 出 も 拾 ふ 出 ま と く 銭 公 ハ 川 と 銭 く 向 の
ま る く せ て 出 ま の 方 の 屋 ま り 水 戸 の 方 く 出 拾 を 出 ま て ま る

一 拾 銭 ハ 屋 の 上 に 拾 の 上 と 云 る て の 出 と 出 好 に 拾 屋 根 の 人 留 の 外 と 出 り の ふ
便 捷 ハ る 出 る 後 出 ま る 〳〵 〳〵 も 出 後

一 西 幼 年 の 時 素 意 と 云 拾 る を 中 に 出 者 慶 和 に 拾 拾 て 十 七 ハ の 時 自 思 に
立 〳〵 出 ま 西 に 拾 史 記 義 伯 伝 を 見 拾 る 出 る に 拾 出 る に 拾 の 方 よ の 出 ま 立 り 立 生 者 ま 立 毋 を 拾 乃
の ひ 〳〵 起 那 ま は て 出 後 に 拾 書 横 ま 拾 の ふ に も 有 ま 立 に 出 ま 拾 を 後
し け る と て 出 後

一 西 江 戸 の 内 ま ち 〳〵 微 行 〳〵 の ひ け る を 出 る 拾 浮 氣 の 拾 に 世 上 に 出 〳〵 先 と 云 も
ひ ろ の 出 人 有 〳〵 す り 有 拾 の 時 に 江 戸 を 者 の 第 内 に 拾 有 る て ハ 人 を 者 ま る
に 使 る る 〳〵 第 〳〵 出 後 に 拾 を せ ん 出 る に 拾 出 る の ま せ く 拾 方 〳〵 出 ま に 拾
江 戸 を 者 の 道 〳〵 捷 経 習 道 ま て 拾 有 る 〳〵 出 拾 拾 に 拾 〳〵 す る れ い 何 拾 す
江 戸 事 内 者 も 公 の 出 ま る 〳〵 ハ 拾 拾 せ ぬ ハ る 〳〵 き 今 の 方 〳〵 し る も
一 微 行 に 拾 る 仕 者 ま 出 拾 に 拾 〳〵 に て 言 夫 と も 喧 嘩 を た て 拾 る 銭 ハ 水 戸 拾

坂のたゝりとゝひしをかなて既て立寄ひしく抑水戸殿の御ハ
身方をするそとゝ坂内力を尽し幸に所の古ねつかひして寄るて出ぬ
まのあり永倍内の方の和摩「徒」きを助力やすといふてゆるゆるまハ
かくいやしくとゝ伝き出坂を寄り種きを撰きよきなみ人ハ種て数なる
ことにこゝ中さる一種して先よ張すすの出操ハ武毅をもと
るされて南重の坂をのうさめを心とるされしら時ハ出と一毛すす種
一毛の義を大山すすきくも出人やききとゝ抜きまきされと武嚴
なもそゝるは種て安坂ちきさ坂の家のるハ大なはゝうゝ種を方の
坂心を恐るゝ家ゝちられ水戸と云家も元来武毅のるまきられる
まるれ武毅のみよ坂の家のまるり出来ハ出を抜出る内のまゝよ
坂内の方和摩をとゝきを坂人種ハ方種まゝとの坂つをはるも先坂
種を出恩家心種りひまも有ゝきるるあれハ出を抜なる坂内ゝ出操の

壮るるとゝひ坂内方をいゝゝ和の端方まゝゝ方操方種ます
敵ハ種の家ゝ

一陸子家ゝ強ハ出者ゝよ敵よ家坂りかゝて敵を国方ゝゝ竹杖まて
金を持来るに行値ゝふ接町ゝ避の人と思方して杖つき男或人者る
に通ゝゝ出をよとゝ云家ゝを為れゝ行ゝた云ハ面ゝ第ゝすゝるゝ
事の不すゝ通路ゝとゝふゝゝと云伝れとも用ひを抜ハ者ハ杖をもゝ
けきハ物ん抜ゝ方ゝも出ハのきゝ人よゝ竹杖まて人をゝ方ゝふゝり永武士の身
まて杖出ゝこゝまて出ゝゝれゝゝゝ忽ゝ身和ゝ出たすゝ方を出ゝ我
ゝ人通ゝゝりとて何の科ハ為ゝ通ゝゝて出ゝゝよとゝ伝ゝゝた
身体を果されんとゝゝさるゝゝゝ我ハ知ゝるゝハあゝた方を通ゝすゝ
ゝゝ出とゝゝ通ゝゝんゝゝせんハ工ハゝゝ作ゝ理をも出ゝ方ゝ作ゝ
用ハ出おのれこゝを敵ゝ方ゝ伝ゝせよゝゝ出ゝ方ゝ出ゝ方ゝ挿みのハ出ゝ方ゝ出ゝ方を強

のかを尺くを不ゝ武士者ハ尺拵ゝ者ハ
ゝ新たゝ品理屈を申上て仕を拵ゝ者
あゝ〜あゝ此ゝ〜道をひゝゝもそと
拵ゝを拵をゝ者ハ〜〜〜〜〜〜〜〜
ゝゝゝゝ〜ゝ〜ゝ〜

一中石川　此屋敷にて一英公と云なる馬上の太刀を拵にて此屋敷の
内中ほどにあり　ある人の曰ひをはばかりぬを古のまことしやかたこしらへ
と云ひしよるれいつもはきの作理りよりの作理を義弘やきをこしらへる時又
鍛冶をのあに義弘ちるひを投ずてのひ英公に紙なのふ当方へ
ものを遣ハ法よ義弘をのいんと云ひ英公思ひのけるきにるれいいるま
あ嫁るきてと云ひるを何のあ嫁るきといふてるあんとこひと
紙なのひハ英公あとのきよ義弘ふ義弘をなりのひ自のうて
のりかりのひこそ城かそと云ひるれハ英をーたつ免ひて首いかば
らけよ掘ごいたきでと云ひるそれすしていやいのめまあるするす
在と言ふ用ありとて再度ちるひすふを拵と

一紙物南蛮拵姫君よお杓杷とこと云ひ同年住るおいきとともに
書陣屋拵よ中有て多列時象ものふ書陣屋拵南蛮拵を

て立ひとる第一せんな思ひられるも此三家の作拵紙りに似り刻物そ有
ハ何年して好よ面をさせまんこせて作笑ハかりれるはれふれ
長きるるも如新しけ立ハ云ひ作ひまんこせなとりの新有ハるを麻まを周後
を言めこまこと周乳世と作合てひこと也居やこしこするあめよあこれ
云の頼敏るすれやこ推量しのひこ避ひたり十いれの長こ豆氣
性るる云中陣よ姫君ハ紙色よりて却ますの姫君ハ云の作居島を思ひ今へ
豆よいるよ切こぬこるるに云の出口ゆるたそこもの比云ひとり要載
の奥よ南弥言の者しに言物を立後しおいやに人ケ尺くれ拵そ向
ものいわこいこと姫君ハ云へ出ものいこる書方よひとりハ切こき
ものふそ周ハ第こしまぬこのそひて第ものとり周るへとそはく
者よの四へのふいこよ書付ふまもかこるるやはるきこと切りもへ家切る
ちりとこんこそ作拵者ーこ云中ー出出作拵をり紙ー　日蝕あこる

[illegible]の武法を[illegible]ん事を[illegible]人事[illegible]
いつき[illegible]を切〻に[illegible]と[illegible]〻死す
甲斐なき事なりと吃驚に堪兼〻孫よりはやまち[illegible]〻迄の[illegible]き
戦場にいて打死をする[illegible]武義なれとも[illegible]れいよりする人なる〻し
男女の歌に隔れ[illegible]人[illegible]れ[illegible]
[illegible]に[illegible]自殺に[illegible]と[illegible]
[illegible]閉〻れ〻孫[illegible]焼〻はやまちなる[illegible]と[illegible]
彼[illegible]の后と云歌の孫と[illegible]
[illegible]ひて[illegible]
[illegible]
[illegible]

一何方よりの[illegible]
[illegible]
[illegible]

一十五日　そのゆる比丘尼一せをもめしてせんとせし
をきゝひのひゝきりうりをを服よ思ひてしよ猶ゝ
阿爺て孫の扱をりのふをの比丘尼むふす年り遠をうに比丘
尼も云よ有をとうしなをもをまゝもせんと思ひ〳〵丁寅　云よ行向
者人〳〵ふごさりすると中上るおを音中世ら〳〵をを服をを人
ばれ〳〵遊りしら是を事〳〵おう〳〵きてをと思ひるを乳をよ〳〵
云をひをとをを免りりをやうてまをにそを公〳〵をを歌原
をを〳〵をよをを〳〵やをを〳〵おをもをれを〳〵をを伝て行ををひをりをを是
ををりを月をのりををりをををりをを中世世をを〳〵一世是尼の服もせんを
十六日の酒〳〵を伝をを強をを〳〵りをのひをりをを
い遊強を程〳〵にむをふをり強をを〳〵を年を人を中世尼尼是尼尼偽〳〵尼尼の
尼〳〵一を系世尼尼〳〵をを伝れ〳〵尼尼伝よ世をりをを〳〵世世年

り跡よ世りを〳〵年を記彼強を百迫〳〵を〳〵遊をを〳〵を〳〵を〳〵ひて世世
世〳〵ひて世用をを世を記をを強を〳〵世世を世を〳〵世世世世〳〵
のを〳〵を〳〵を世世を〳〵を〳〵世世を〳〵を〳〵を〳〵

類
腸胃をたたくつきぬけ、ずいぶん苦しがりやろうとはのひゝなすひゝ弱き人とも、はんはなるまゝ人と富家の者を近くとも主家の下僕と四海の孫ゝちそとをのふ事特よ第ようすあるゝ通りて通りゝ第ゝもりもるの

十四ノ内ノ内ノ内

有り有りし増て彼れ所てすることかくこそやくもん職の計人一番は意義
せんする必ずこそ彼れ大勢一度は寄せ来ないかなる方のみは大なる部屋
ぬ一ふ宮家とも世を懐ともなる所なるぬて法師やき会をうる今は玉ふ出産する
凡士卒の別儀は大将の心ひは立士卒は日士卒なるを大将の指揮は依て猶
故障は言なるるて古が皆所ふの英武を加る御しぬんは彼等はとても一刹の
利益まして言及ふ所いかなる陳き法拝賞ふ有りんをを自称致誠し
なけるてと悔変なるし

一僧と慢とは能似るものて毫髪の差なと見へてせなる慢者なること
慢ふ奇異とさて世を人て多は千万人の中に陳ふるて奏格のする類ふり異は
又用ふ言して通僧を言僧てぬ引行自慢者なるもの独身一分卑怯
のふりを変ふ侵人は愛をうけさるに授きはるるに者れり見所は
能法ふ人は言葉の百まおおて沈勢を言葉ふ言毫も安よ
廉さすれるを幸概を者むし人の言を捨て慢者と見てそるを言僧
捨ふ風は合ぬとて却る人の意僧なるを慢者の好は陳るを僧のおよ
大なる変なるを一ふも慢者の者をとりぬして白鷺の浦服るとを
なりふる所事有掘川秋事の伝有ふる所一ぬ所ふ例の所ふ
ありるとて狭ふ所ふ所ふ例ふ思ふ所ふ所ふ陳ふ
けると言ふを所ふ所ふ所ふ言ふて千ぬ二千ぬの事をいるみ見る事
ふ恰好なる所事慢者て似ふれとも此は己有り陳者と一ぬの事ふて
れふ人ふ所ふれとのを手ふ所ふ戸表所貴用堅ぬて所ふ過ぎの
時ふ有り所遠ぬ所ふ上ふ所ふ所ふ大樹の極似ふ所ふ方の猛忘
ある言ふれいかなる陳ふ所ふ思ふ有ふ所ふ言ふ量ふ
ゆふ遠ふ所慢者とふ中ふすふ所ふ人の右ふも身常ふ所ふて歌
を中ふるに然ふ言ふ言ふ所ふ言ふ所ふ言ふ所ふ言ふ所ふ言ふ所ふ言ふ